

職人魂が手彫りの技術に活かしている！

有吉有文堂



明治 42 年創業の新町にある「有吉有文堂」さんは今年 113 年目になる正真正銘の老舗です。永く続く秘訣を代表の有吉民雄さんにお話を伺ってきました。取材・編集/大下

お客さんが喜んでくれる時が一番嬉しいです。高価なものほど感動してもらえます。

【明治から続く職人氣質！】

初代で民雄さんの父親の太吉（たきち）さんは文章を書くのが好きだったので「有文堂（ゆうぶんどう）」と名付けたとか。また、太吉さんの師匠は江戸時代の生れで、明治時代の大臣の印や日本銀行などの印を多く手掛けたそうです。

2代目になる民雄さんは、10歳の頃から父親の元で修業しキャリアは75年以上です。小学生の頃は、友達が遊びに行くのを横目で見ながら頑張ってきたそうで、その経験が今に活かしているとのこと。

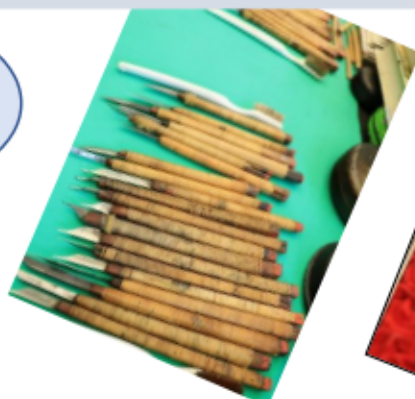
【手彫りです！】

今でも印鑑は手彫りです。ゴム印も40～45年くらい前まで手彫りでした。彫る印鑑の材質や文字の大きさなどに合わせ、刃の太さなどが異なるたくさんの印刀（いんとう）があります。視力も良く、80歳直前まで裸眼で仕事をしていたとか。そのかわり、テレビは5分以上見ないように気を付けていたそうです。5年ほど前には大病をして半年店

を閉めていたそうですが、今は楽しく仕事をしていらっしゃるそうです。



一坊主台
これが無いと立膝の上で彫るので、本当に大変だそうです！



様々な印刀（いんとう）を使い分けています！



中には何十万円もするものも！

【良質は深く蔵して虚しきが如し】—私は初めて聞いた言葉でした！

印鑑は象牙や水牛から水晶まで材質が様々です。高いものもあるので、色褪せしないように店頭には全部は並べません。一見品揃えが乏しく見えますが、ご要望があれば色々なものが揃っていますよ。実は有吉さんの向こう側に見える棚の中も、印鑑でいっぱい！要望が多いのは個人の実印と銀行印です。昔の印鑑を短くし、再度彫ったりもするそうです。



↑昔の薬棚を再利用

【今でも努力を継続！】

有吉さんはたくさんの本を読み、文章を書いてきました。また、茶道をしたりと全て“字”に気品を出すための精神修業です。もちろん今でも字の練習をしているそうです。「字が上手にならないと言う人は単に練習が足りません。1日に何回筆を持っていますか？」

■ DATA

【住 所】周南市新町 2-8
【営業時間】9時～15時
【TEL】0834-21-2587
【定休日】土曜・日曜・祝日